

第5回大分市長寿応援バス事業のあり方検討会

議事資料

■ 報告

1. 令和5年度の長寿応援バス利用実績について 報告1
2. 大分バスの長寿応援バス利用料金の変更について 報告2

■ 議題

1. ICカード化に関するご意見について
 - ① ICカード化に関する全体的なご意見とその他のご意見 議題1-①
 - ② 各段階、項目ごとの手法等に関するご意見まとめ 議題1-②
2. 大分市長寿応援バス事業のあり方検討会 報告書（案）について
 - ① 報告書（案）に趣旨を盛り込んだご意見 議題2-①
 - ② 報告書（案） 議題2-②

報告1 令和5年度の長寿応援バス利用実績について

: 事業対象者

年度	事業対象者数（年度末高齢者人口）			乗車証 交付者数 (人)	利用料金 (円)	利用回数 (回)	委託料 決算額 (千円)
	65歳以上 (人)	経過措置 (人)	70歳以上 (人)				
H16	79,100	—	56,224	33,666	100	—	200,000
H17	82,004	—	58,471	39,875	100・200・300	382,305	300,110
H18	85,400	—	60,606	42,328	100・200・300	1,742,232	253,655
H19	88,388	—	63,007	44,783	100・200・300	1,858,232	264,015
H20	91,605	—	64,787	46,686	100・200・300	1,896,803	267,334
H21	94,415	—	66,646	48,574	100・200・300	1,874,040	264,170
H22	95,796	—	68,968	50,865	100・200・300	1,824,822	258,899
H23	99,090	—	71,749	53,461	100	2,367,232	260,000
H24	103,995	—	74,135	55,831	100	2,455,525	260,000
H25	109,339	—	76,743	79,676	100	2,888,327	290,000
H26	114,095	—	78,932	84,996	100	3,224,762	308,572
H27	117,940	—	79,970	89,073	100	3,318,924	308,572
H28	121,404	—	82,843	92,504	100	3,259,687	308,572
H29	124,491	—	87,017	95,395	100	3,295,111	308,572
H30	127,201	—	91,846	97,478	100	3,211,661	308,572
R1	129,177	—	95,942	98,784	100 (10月より150)	3,042,044	348,268
R2	131,717	(66歳以上) 125,404	99,462	96,574	150	1,888,876	198,206
R3	133,435	(67歳以上) 121,144	102,146	93,882	150	1,862,977	218,489
R4	134,169	(68歳以上) 116,469	104,265	90,865	150	1,889,615	222,055
R5	135,363	(69歳以上) 111,847	105,956	87,759	150	1,894,772	231,052

報告2 大分バスの長寿応援バス利用料金の変更について

長寿応援バス事業の利用料金は、令和元年度の「大分市高齢者ワンコインバス事業あり方検討会」の意見を踏まえ、令和元年10月1日から初乗り運賃(150円)と同額に設定している。

令和6年3月1日から大分バスの運賃改定が行われ、初乗運賃が150円から180円に改定されることに伴い、周知期間を設け、大分バスの長寿応援バス利用料金を変更した。

1. 実施時期 令和6年5月1日(水)から

2. 利用料金

バス会社	長寿応援バスの利用料金	
	現行	変更後
大分バス	150円	180円
大分交通 白津交通	150円 ※現行どおり	

3. 周知 市報、ホームページ、バス車内広告等により実施

【参考：バス車内広告】

大分バスご利用者様

令和6年(2024年)5月1日(水)から
長寿応援バスの利用料金が
150円から**180円**(現金)に変わります

手続きの必要は、ありません。

そのまま利用
できます。

長寿応援バス
乗車証をお持ちの方

ワンコインバス
乗車証をお持ちの方

お問い合わせ 大分市長寿福祉課 TEL.097-537-5747

IC カード化に関する全体的なご意見

- ① **【追加】** IC カード化を進めていくという方向性は良い。
- ② **【追加】** 一定程度の移行期間を決めて、現金と IC カードの併用を認め、その後は IC カードに一本化するのが良い。
- ③ 小銭を準備しなくて良いので IC カードが良い。
- ④ 大分では車利用が多く、バスに乗るのは年に数回という人は、現金払いにそれほど抵抗がなく、IC カード利用にメリットを感じにくいのではないか。
- ⑤ IC カードを使ってバスに乗って楽しい思いをする、いろんな情報を収集できる、文化的な生活もできる、というようなことにつなげていけると思う。
- ⑥ 高齢者としては利便性が一番大切なことなので、市からアンケート調査を行ってはどうか。
- ⑦ 自分でチャージすることができ、慣れている世代には、もっと早くから割引になるということを知っておいてはどうか。50代でもまだ制度を知らない人たちがいると思う。
- ⑧ 高齢になると色々な手続きが面倒になってしまい、それなら申請しなくていい、となってしまうのは何のことかわからない。
- ⑨ 移動の質（クオリティ・オブ・モビリティ）を上げるための手段の一つが IC カードだと考える。
- ⑩ 全国的に IC カード化が進んできていること、バス運転手の高齢化を考えると IC カード化は高齢者のみではなく社会全体の課題であると思う。交通政策全体として IC カード化の方向をできるだけ生活にフィットしていけるように考え、その中で高齢者施策にどのように反映するのかを考えることにより、汎用性の高い手法となるのではないか。
- ⑪ 長寿応援バスと障がい者割引とを併用する場合、自動的に安い方を判断して差し引かれるような IC カードになるのが理想。
- ⑫ 白津交通にも IC カードが使える車載器が導入されることを希望する。
- ⑬ IC カードの利用割合が増えることのメリットとして、車内での決済がスムーズになり、バスの乗降にかかる時間の短縮につながっている。
- ⑭ スムーズな乗降と利用データの取得のメリットが大きい。ダイヤの見直しを行う際にも役に立つ。
- ⑮ **【追加】** 利用者の方が利用しやすいのがいちばんだと考える。利用が狭まることのないように、柔軟に対応できるところは対応していきたい。利用者を置き去りにするようなことはないようにしていきたい。
- ⑯ **【追加】** IC カード化には、事業者としても一緒になって取り組んでいきたい。利用者に不便をかけることのないよう事業者側でできる PR やサポートは行っていきたい。

その他のご意見

- ① 高齢化が進む中で、高齢者が安価なバス料金で利用できて、外に出る機会を持てば健康寿命の延伸にもつながる。ただ、バスを利用したくてもできない人たちがいる。バスを利用したくてもできない人がどれだけいるかをニーズ調査しているのか。
- ② もっと多くの人に長寿応援バスで出かけてほしい。もっと使いやすい事業にして、高齢者自身の活性化はもちろん、市全体の活性化につながれば良い。
- ③ 交通と福祉は協力しなければならないと思う。2つの部局の交流や意見のマッチングができるようなプロジェクトは行っているのか。
- ④ IC カードはタクシーやふれあい交通では利用可能か。
- ⑤ 近所でバス利用される方も多くいるが、ノンステップでないバスでは乗り降りが難しい方もいる。
- ⑥ バス事業者からの説明で、ドライバーの高年齢化や人員不足など大変な状況を実感した。従来のルートや停留所にこだわらない、新しいバス運行スタイルについても今後考えていかないといけないのではないか。
- ⑦ 普段バスに乗らない人は、郊外から中心部に行く時は良いが、中心部ではたくさん乗り場があり、どこから乗ったらよいかわかりづらいようなので、案内をわかりやすくしたり、案内する人を置いたりできないか。
- ⑧ バスに乗って IC カードをタッチする際に、残額の画面が見にくい。前もって残額を把握するのに、もう少し大きく見やすくできないか。
- ⑨ 夏休みに大分バスで子ども向けの乗り放題をしていたかと思うが、同じ時期に孫と一緒に乗り放題を実施すれば利用者が増えるのではないか。

段階、項目		手法、パターン		検討会でのご意見	ご意見まとめ	市としての望ましい方向性	
		a	b				
1 事前 手続	(1) 手続方法 a + カードの発行・受取 b	①	窓口 市	<ul style="list-style-type: none"> すべての手続が自宅でできると良い。 ICカードの入手がより簡単な方が良い。 既に長寿応援バスを利用している人には市から IC カードが郵送される方が楽ではないか。 オンライン手続は高齢者には難しい。 自分が歳を取ったときに、スマートフォン等による手続はできない気がする。 【追加】 窓口とオンラインの併用ができれば良い。 【追加】 使用前だけでなく、使用開始後も慣れるまで、サポート体制を充実すれば、手続や移行期間に関する高齢者の不安感を払拭できるのではないか。 	※	<ul style="list-style-type: none"> できる限り手続しやすく、カードの入手も容易な手法が望ましい。 オンライン手続を実施する場合は、窓口での手続も可能とするなど、スマートフォン等が苦手な方にも配慮してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に一定程度の負担をお願いしたい。 郵送等と併せて、オンライン手続も可能とする仕組みが望ましい。 既に乗車証を持っている人と今後新たに対象となる人の手続の方法を分けることも考えられる。 <p>※どのカードを採用するか等による 3(1)(2)関連</p>
		②	郵送 バス事業者				
		③	郵送 市民				
		④	オンライン 市民				
	(2) カード発行（登録） 期間	①	即日、翌日	<ul style="list-style-type: none"> 即日・翌日に発行される方が良い。 	①	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り短期間で済む仕組みが望ましい。 <p>※どの事前手続方法を採用するか等による 1(1)関連</p>	
		②	数週間				
	(3) マイナンバーカードの 活用	①	あり	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカードの活用は「あり」でも良い。 マイナンバーカードを活用するメリットは？（資格確認を自身で行うことができ、発行に係る期間の短縮につながる） 	①	<ul style="list-style-type: none"> 利用者自らが手続できるようになることから、マイナンバーカードの活用を可能とする仕組みが望ましい。 	
		②	なし				
	(4) サポート体制	①	支援窓口	<ul style="list-style-type: none"> オンライン手続をするのであれば、サポート窓口を多く設ける方が良い。 【追加】 対象が高齢者なので、わかりやすさを重視して丁寧に説明して欲しい。 【追加】 年に数回しかバスに乗らない人もいるので、IC カード化されること自体を知らないというような方がいないようにして欲しい。 【追加】 使用前だけでなく使用開始後も慣れるまでサポート体制を充実すれば、手続や移行期間に関する高齢者の不安感を払拭できるのではないか。 【追加】 バス運転手による簡単な説明やアドバイスがあったら良いのではないか。 	※	<ul style="list-style-type: none"> 使用開始前だけでなく開始後も、一定期間、利用方法等をわかりやすく丁寧に説明するなど、サポート体制を充実させてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 採用する仕組みに応じて、適切な手法や規模のサポートを準備する必要がある。 <p>※どの事前手続方法を採用するか等による 1(1)関連</p>
		②	コールセンター				
		③	説明会				
		④	専用サイト				

段階、項目		手法、パターン		検討会でのご意見	ご意見まとめ	市としての望ましい方向性
2 移行	(1) 周知から完全移行までの期間	①	3か月	<ul style="list-style-type: none"> 移行に十分な時間をかけることが望ましい。その間に丁寧な説明を行ってほしい。 【追加】 IC カードの利便性が浸透してから移行する方が良いので、移行期間はある程度認めてもらえるとありがたい。 	※	スムーズに IC カードに移行させるため、周知期間、移行期間を十分に確保して、丁寧な説明を行う方が良い。
		②	6か月	<ul style="list-style-type: none"> 【追加】 周知期間を長めに取って、十分な周知を行えば、問題なく移行できるのではないかと。 		
		③	9か月	<ul style="list-style-type: none"> 【追加】 一定期間の猶予を設けて、思い切って IC カードに切り替えるなど、批判はあるかもしれないが、どこかで線引きした方が良い。 		
	(2) 移行期間の対応 (現金との併用)	①	併用あり	<ul style="list-style-type: none"> 移行時期に現金との併用を行うことはやむを得ない。 	①	IC カードの利便性が浸透するよう、一定期間は現金による支払も認める方が良い。
		②	併用なし	<ul style="list-style-type: none"> 【追加】 一定期間の移行期間を決めて、現金と IC カードの併用を認め、その後は IC カードに一本化するのが良い。 		
	3 カード	(1) カードの種類	①	独自カード	<ul style="list-style-type: none"> 既に長寿応援バスを利用している人には専用の IC カードが分かりやすいのではないかと。 	② ③
②			(記名式) 10 カード	<ul style="list-style-type: none"> IC カード枚数が増えない方が良く、増えるのは負担になる。 今持っている IC カードを使いたい。 紛失した場合、記名式 IC カードであれば、再発行手数料はかかるが、残額を新しい IC カードに移行できる。 		
③			(無記名式) 10 カード	<ul style="list-style-type: none"> 【追加】 10 カードが良い。 【追加】 金銭管理の観点から記名式が良い。 【追加】 個人で記名式・無記名式を選択する方式もあると思う。 		
(2) 券面デザイン		①	オリジナル	<ul style="list-style-type: none"> 独自デザインの IC カードが良い。 カード枚数が増えるのは負担になるが、専用の目立つデザインの方が使いやすいのではないかと。 	②	独自のデザインとせず、10 カードを活用した方が良い。
		②	デザインなし	<ul style="list-style-type: none"> 手持ちの IC カードに資格の刻印ができるのが良い。 【追加】 10 カードが良い。 【追加】 コストのかからない方法をぜひお願いしたい。 		
(3) カードの有効期限、更新		①	あり	<ul style="list-style-type: none"> 有効期限がない方が良い。 	②	有効期限がない方が良い。
		②	なし			

段階、項目		手法、パターン		検討会でのご意見	ご意見まとめ	市としての望ましい方向性
4 利用	(1) 運賃の支払	①	ICカードのみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ICカード化により決済と乗降がスムーズになり、バスの乗降にかかる時間の短縮につながる。 ・ICカード化は利用データの取得のメリットが大きく、ダイヤの見直しにも役立つ。 ・現金との併用が続くと、実績の取得、施策形成にも支障が生じる。 ・ICカードを証明として提示して現金で払うこともでき、チャージで払うこともできるのが良い。 ・現金払いも可能として融通性を持たせれば、チャージしておく方が便利だと感じてチャージする人が増えるのではないか。 	①	ICカード払いに一本化する方向が良い。
		②	ICカード + 現金支払	<ul style="list-style-type: none"> ・【追加】一定程度の移行期間を決めて、現金とICカードの併用を認め、その後はICカードに一本化するのが良い。 ・【追加】チャージをして使うカードであるということを認識してもらい、運賃支払いや買い物でも利用できることを周知徹底すれば良い。 ・【追加】一定期間の猶予を設けて、思い切ってICカードに切り替えるなど、批判はあるかもしれないが、どこかで線引きした方が良い。 		
	(2) チャージ	①	バス車内	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニでチャージできるのが良い。 	① ② ③	チャージがしやすい方が良い。
		②	バス営業所等			
③		コンビニ等				
(3) 利用券等の書類の提示・携行	①	あり	<ul style="list-style-type: none"> ・利用に必要なものを忘れると割引が受けられないのが心配だ。 	①	ICカード以外の所持品・提示がない仕組みの方が良い。	
	②	なし				
(4) 他の用途（買い物等）でのカード利用	①	可能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でチャージできる世代にはコンビニ等でも使える一本化したICカードを使いたいという意見もあると思う。 ・他の用途で利用できなくても良い。 ・【追加】チャージをして使うカードであるということを認識してもらい、運賃支払いや買い物でも利用できることを周知徹底すれば良い。 	①	運賃支払だけでなく、他の用途でも利用できるカードであることを周知すると良い。	
	②	不可能				
5 発展性	柔軟なメニュー設定・変更	①	可能	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に柔軟な料金設定ができるなど、いろんな仕組みを考案することができるメリットがある。 	①	柔軟なメニュー設定・変更が可能な仕組みの方が良い。
		②	不可能			

段階、項目	手法、パターン	検討会でのご意見	ご意見まとめ	市としての望ましい方向性
その他の事項	—	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿応援バスと障がい者割引とを併用する場合、自動的に安い方を判断して差し引かれるようなICカードになるのが理想。 ・白津交通にもICカードが使える車載器が導入されることを希望する。 ・【追加】高齢者以外が利用することができてしまうという懸念がある。可能であるならば不正利用を防ぐために、シールでも良いので見た目で判別できる要素がある方が良いのではないか。 ・【追加】ICカードはカードケースに入れたままでも利用できるため、不正利用をしない前提で使ってもらえないのではないか。 ・【追加】利用者が亡くなった場合のチェックをしないと、そのICカードがそのまま使われてしまう恐れがある。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・【追加】長寿応援バスと障がい者割引の自動判定及び白津交通のバスのICカード化については、実現されることが望ましい。 ・【追加】技術的に可能かどうか事業者と協議する必要がある。

議題 2-① 報告書（案）に趣旨を盛り込んだご意見

段階、項目		趣旨を盛り込んだご意見	ご意見まとめ
IC カード化に関する全体的なご意見		<ul style="list-style-type: none"> ・ IC カード化を進めていくという方向性は良い。 ・ 一定程度の移行期間を決めて、現金と IC カードの併用を認め、その後は IC カードに一本化するのが良い。 ・ IC カードを使ってバスに乗って楽しい思いをする、いろんな情報を収集できる、文化的な生活もできる、というようなことにつなげていけると思う。 ・ 高齢になると色々な手続きが面倒になってしまい、それなら申請しなくていい、となってしまうのは何のことかわからない。 ・ IC カードの利用割合が増えることのメリットとして、車内での決済がスムーズになり、バスの乗降にかかる時間の短縮につながっている。 ・ スムーズな乗降と利用データの取得のメリットが大きい。ダイヤの見直しを行う際にも役に立つ。 	—
その他のご意見		<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと多くの人に長寿応援バスで出かけてほしい。もっと使いやすい事業にして、高齢者自身の活性化はもちろん、市全体の活性化につながれば良い。 	—
1 事前手続	(1) 手続方法 + カードの発行・受取	<ul style="list-style-type: none"> ・ IC カードの入手がより簡単な方が良い。 ・ 窓口とオンラインの併用ができれば良い。 ・ 使用前だけでなく、使用開始後も慣れるまで、サポート体制を充実すれば、手続や移行期間に関する高齢者の不安感を払拭できるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できる限り手続しやすく、カードの入手も容易な手法が望ましい。 ・ オンライン手続を実施する場合は、窓口での手続も可能とするなど、スマートフォン等が苦手な方にも配慮してもらいたい。
	(2) カード発行（登録）期間	—	即日・翌日に発行される方が良い。
	(3) マイナンバーカードの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイナンバーカードの活用は「あり」でも良い。 	本人確認にマイナンバーカードを活用することを可能としても良い。
	(4) サポート体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン手続をするのであれば、サポート窓口を多く設ける方が良い。 ・ 使用前だけでなく使用開始後も慣れるまでサポート体制を充実すれば、手続や移行期間に関する高齢者の不安感を払拭できるのではないか。 	使用開始前だけでなく開始後も、一定期間、利用方法等をわかりやすく丁寧に説明するなど、サポート体制を充実させてもらいたい。
2 移行	(1) 周知から完全移行までの期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移行に十分な時間をかけることが望ましい。その間に丁寧な説明を行ってほしい。 ・ IC カードの利便性が浸透してから移行する方が良いので、移行期間はある程度認めてもらえるとうれしい。 ・ 周知期間を長めに取って、十分な周知を行えば、問題なく移行できるのではないか。 	スムーズに IC カードに移行させるため、周知期間、移行期間を十分に確保して、丁寧な説明を行う方が良い。
	(2) 移行期間の対応（現金との併用）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定程度の移行期間を決めて、現金と IC カードの併用を認め、その後は IC カードに一本化するのが良い。 	IC カードの利便性が浸透するよう、一定期間は現金による支払も認める方が良い。

議題 2-① 報告書（案）に趣旨を盛り込んだご意見

段階、項目		趣旨を盛り込んだご意見	ご意見まとめ
3 カード	(1) カードの種類	<ul style="list-style-type: none"> ・今持っている IC カードを使いたい。 ・10 カードが良い。 ・金銭管理の観点から記名式が良い。 ・個人で記名式・無記名式を選択する方式もあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10 カードを活用した方が良い。 ・既に所持している 10 カードを活用できる仕組みが望ましい。 ・利用者の金銭管理の観点から、記名式が良いが、記名式・無記名式を選択する方式もあり得る。
	(2) 券面デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・10 カードが良い。 ・コストのかからない方法をぜひお願いしたい。 	独自のデザインとせず、10 カードを活用した方が良い。
	(3) カードの有効期限、更新	<ul style="list-style-type: none"> ・有効期限がない方が良い。 	有効期限がない方が良い。
4 利用	(1) 運賃の支払	<ul style="list-style-type: none"> ・IC カード化により決済と乗降がスムーズになり、バスの乗降にかかる時間の短縮につながる。 ・IC カード化は利用データの取得のメリットが大きく、ダイヤの見直しにも役立つ。 ・一定程度の移行期間を決めて、現金と IC カードの併用を認め、その後は IC カードに一本化するのが良い。 ・チャージをして使うカードであるということを認識してもらい、運賃支払いや買い物でも利用できることを周知徹底すれば良い。 	IC カード払いに一本化する方向で良い。
	(2) チャージ	—	チャージがしやすい方が良い。
	(3) 利用券等の書類の提示・携行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用に必要なものを忘れると割引が受けられないのが心配だ。 	IC カード以外の所持品・提示がない仕組みの方が良い。
	(4) 他の用途（買い物等）でのカード利用	<ul style="list-style-type: none"> ・チャージをして使うカードであるということを認識してもらい、運賃支払いや買い物でも利用できることを周知徹底すれば良い。 	運賃支払だけでなく、他の用途でも利用できるカードであることを周知すると良い。
5 発展性	柔軟なメニュー設定・変更	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に柔軟な料金設定ができるなど、いろんな仕組みを考えることができるメリットがある。 	柔軟なメニュー設定・変更が可能な仕組みの方が良い。
その他の事項		<ul style="list-style-type: none"> ・長寿応援バスと障がい者割引とを併用する場合、自動的に安い方を判断して差し引かれるような IC カードになるのが理想。 ・白津交通にも IC カードが使える車載器が導入されることを希望する。 ・高齢者以外が利用することができてしまうという懸念がある。 	—

大分市長寿応援バス事業のあり方検討会

報 告 書

(案)

令和6年 月 日

はじめに

「長寿応援バス事業」は、2004年（平成16年）6月に「高齢者ワンコインバス事業」としてスタートし、2019年（平成31年）1月から令和元年5月にかけて行われた「高齢者ワンコインバス事業のあり方検討会」における検討の後、利用料金や対象年齢の見直しが行われた上で、「長寿応援バス事業」として継続され、現在に至っています。

近年は、対象年齢引上げや新型コロナウイルス感染症の流行によると見られる影響により、2019年度（令和元年度）以前と比較すると利用回数が大きく減少しているものの、多くの市民が乗車証を持ち、広く定着しています。一方で、本事業の利用料金が現金払い方式であることにより、支払が不便であることに加え、正確な利用実績が把握できないことが以前から課題となっています。

その解決に向けて、2023年（令和5年）8月に本検討会が設置され、支払方法のICカード化を当面のテーマとし、15名の委員で検討してきました。

本報告書は、近年の他都市における高齢者移動支援施策のICカード化事例を参考に、事前手続から利用に至るまでの各段階、項目等に関し、望ましい手法やその実施に当たって配慮を要する事項等を取りまとめました。

今後は、本報告書を踏まえてICカード化が実現し、長寿応援バスの利便性向上が図られることを願います。

令和6年 月 日

大分市長寿応援バス事業のあり方検討会

会長 阿部 誠

目 次

1. 本事業の IC カード化を検討することとなった経緯	1
2. IC カード化の可否について	2
3. IC カード化に向けた手法等の検討	
(1) 事前手続について	2
(2) 移行について	2
(3) カードについて	3
(4) 利用について	3
(5) 発展性について	3
(6) その他の事項について	4
4. まとめ	4
5. 検討会での意見	
6. 検討会の概要	
(1) 設置要綱	
(2) 委員名簿	
(3) 開催状況	
7. 参考資料	
(1) 事業の概要	
(2) 事業の変遷	
(3) 事業の推移	

1. 本事業の IC カード化を検討することとなった経緯

「長寿応援バス事業」は、2004 年（平成 16 年）6 月に「高齢者ワンコインバス事業」としてスタートして以来、専用磁気カードの導入や対象年齢の見直しが行われながら、多くの高齢者に親しまれ、利用されてきた。

乗車証交付者数は、事業開始当初の 2004 年度（平成 16 年度）は 33,666 人であったが、2018 年度（平成 30 年度）には 97,478 人と当初の約 2.9 倍に、利用回数は、ワンコインバス専用磁気カードが導入された初年度の 2006 年度（平成 18 年度）は 1,742,232 回であったが、2018 年度（平成 30 年度）には 3,211,661 回と約 1.8 倍になるなど、高齢化の進行に伴い、いずれも大幅に増加している状況であった。

事業実施に係る委託料の算定に必要な利用回数については、ワンコインバス専用磁気カードが導入されていた 2006 年（平成 18 年）1 月から 2011 年（平成 23 年）3 月までの間は正確な把握が可能であったが、磁気カードが廃止されて以降は、乗務員のカウントによる推計となっていた。委託料は、その推計値を基にバス事業者との協議によって決定され、利用回数の増加に合わせて順次増額されてきたが、2018 年（平成 30 年）、バス事業者から「現在の委託料は利用実績に見合った額になっていない」として、事業継続のための委託料の増額要望が出された。

そこで、2019 年（平成 31 年）1 月に「高齢者ワンコインバス事業のあり方検討会」が設置され、事業を持続可能なものとする観点から、行政、バス事業者、利用者それぞれの負担のあり方について検討が行われ、同検討会の報告を受けて、同年 10 月から利用料金の見直し、2020 年（令和 2 年）4 月から対象年齢の引き上げが行われた。

その報告書においては、バス事業者への委託料積算のためには利用実績の把握が必要であり、利用区間、運賃及び利用回数を正確に把握することができる IC カードの導入が望ましいとされ、バス事業者などの協力を得て IC カードの導入やその他利用実績の把握に有効な方法を調査することが要望されている。

それを踏まえ、市においては、他都市の事例を参考に、IC カードの定期券の方式を活用した仕組みの検討が行われたが、バス事業者それぞれ個別の IC カードが必要となることや数年に 1 度の更新が必要となること等の課題があり、導入が見送られ、現在に至っている。

その後、前回の検討会から約 4 年が経過し、他都市における新たな IC カード導入事例も増えてきたことから、2023 年（令和 5 年）8 月、新たに「長寿応援バス事業のあり方検討会」が設置された。本検討会の設置目的は「長寿応援バス事業が効果的かつ持続可能な制度となるように、今後のあり方を検討する」とこととされているが、上記の経過を踏まえ、当面のテーマを IC カード化に設定し、利用料金が現金払いであることへの対策のほか、今後の対象者の増加に伴う事業費の増加等に対応できる仕組みの構築も視野に入れ、検討を行うこととなった。

2. ICカード化の可否について

具体的な手法等の検討の前段として、ICカード化すること自体の可否について委員に意見を聴いたところ、利用者の利便性向上はもとより、正確な利用実績の把握、さらにはバス事業者も乗降にかかる時間の短縮や利用データの取得が可能となるなど、導入による大きな効果が見込まれることから、本検討会としてICカード化を進めていくことは賛成である。

3. ICカード化に向けた手法等の検討

本検討会では、これまで5回にわたる会議を開催し、近年の他都市におけるICカード化事例を参考に、ICカードに移行するとした場合の「事前手続」「移行」「カード」「利用」「発展性」の各段階・項目ごとに、望ましい手法や配慮すべき点について検討を行った。

(1) 事前手続について

事前手続の手法としては、郵送や窓口、オンラインなど様々な手法が考えられるが、本事業の対象者が高齢者であることを踏まえ、可能な限り手続しやすく、カードの入手も容易な手法を採用することが望ましい。特に、既に長寿応援バスを利用（乗車証を所持）している方々には、一定の配慮が必要となると考える。

一方、今後は、スマートフォン等の使用に慣れた世代が対象者となることから、手続の迅速化・効率化の観点から、本人確認を利用者自身が行えるマイナンバーカードを活用した仕組みも視野に入れ、オンライン手続を併せて導入することの検討も必要となろう。

また、事前手続に当たっては、ICカードの利用やスマートフォン等の操作に不安がある方を対象とした窓口を設置するなど、利用や手続に関するサポート体制を充実させることが望ましい。なお、ICカード導入後もサポート体制が継続されることが適当である。

(2) 移行について

現金による支払からICカードによる支払にスムーズに移行させるためには、事前の周知期間を含めて、移行期間を十分に確保し、ICカードの利用方法や利便性について丁寧な説明を行うことが必要である。

また、移行期間中は、現金、ICカードいずれによる支払も可能とすることが望ましい。

(3) カードについて

現在、nimoca（ニモカ）やSuica（スイカ）をはじめとする交通系ICカードが一定程度普及しており、他都市での公共交通の運賃の支払はもとより、買い物等の他の

用途にも利用できる全国相互利用可能な IC カード（10^{テン}カード）を活用することが適当である。

その場合、既に10^{テン}カード所持している市民も相当程度いると推測されることから、そのカードを活用できる仕組みが望ましい。

また、利用者の金銭管理の観点から、無記名式の IC カードよりも、再発行が可能な記名式カードの方が良いと思われるが、利用者の希望で記名式と無記名式を選択できる方法も考えられる。

更新手続の有無については、利用者の手続負担を軽減する観点から、更新不要で有効期限のない IC カードが望ましい。

（４）利用について

運賃の支払については、和歌山市の事例のように、IC カード払いと現金払いの両方を認めている事例があることから、どちらでも支払ができる仕組みが良いとの意見もあったが、IC カード化の目的である利用実績の把握等の課題解決はもとより、チャージして支払うという IC カード本来の機能と利便性を活かすためにも、移行期間中に使い方やメリットについて丁寧な説明を行うことを前提に、IC カード払いに一本化する方向で差し支えないと思われる。

利用に当たっては、本人確認のために IC カード以外の書類をバス乗務員に提示させることも考えられるが、持ち物が増える利用者の負担やバス乗務員の負担を軽減する観点から、提示を必要としない仕組みが望ましい。ただし、その場合は何らかの不正利用対策を別途検討する必要はあろう。

（５）発展性について

2014 年度（平成 26 年度）から 2019 年度（令和元年度）までは、長寿応援バスの年間利用回数が 300 万回を超えていたが、2020 年度（令和 2 年度）以降は、対象年齢引上げや新型コロナウイルス感染症の流行によると見られる影響により、190 万回程度となっている。

今後は、何らかの利用促進策が期待される一方で、高齢化のより一層の進行により、対象者数や利用者数の増加が見込まれ、将来的には事業のさらなる見直しが必要となることも想定される。

こうしたことから、金額の変更や回数制限など、将来的に柔軟なメニュー設定を可能とする仕組みを導入することにより、効果的かつ持続可能な長寿応援バス事業の実現にも寄与するものと考えられる。

（６）その他の事項について

検討会の中で、「長寿応援バスと障がい者割引とを併用している場合、自動的に安い金額が引かれるような仕組みにできないか」「現在、IC カード決済が導入されてい

ない臼津交通（株）のバスでも IC カードが使えるようにならないか」との意見が出された。

これらについても、今後 IC カード化に向けた検討の中で、併せて検討されることを希望する。

4. まとめ

今後、市においては、本報告を踏まえ、具体的な手法等の検討を進めていくこととなると思われるが、長寿応援バスの利用者が高齢者であることを踏まえ、特に既に利用されている方々にとって、手続が複雑であること等により申請を手控えるといったことにならないよう、十分に配慮することを要望する。

なお、本報告における要望等がすべて実現されることが理想であるが、そのためには相当のコストや時間を要すると見込まれることから、必要に応じて手法等を取捨選択することもやむを得ないと考える。

結びに、本事業の IC カード化により、路線バスの利用促進に寄与することはもちろん、利用者にとって使いやすく、高齢者の外出促進や健康増進、心豊かな生活の実現、さらには市全体の活性化にもつながることを念願する。